

苔山居

設計:平倉章二+平倉直子建築設計事務所

斜面に浮かぶプラットフォーム

平倉章二 | Shoji Hirakura

敷地は、南側に緩やかに広がる苔のマウンドから、北側へ下る傾斜地である。

その場所の特異性、それぞれの固有の環境が有する豊かさを発見し、その良さをいかに引き出して、享受することができるかは、建築の主要なテーマのひとつであろう。“山居”とは周囲のさまざまな自然環境の内側に寄り添いながら暮らすための“場”である。

瑞々しい苔のマウンドにゆったりと対峙し、苔に支えられながら住まうことができる“場”として、緑の斜面の上にコンクリートで、フラットなプラットフォームを浮かせた。素形のような“場”を計画すること。それがすべてのきっかけであった。その上部に、もう少し短いタイムスパンで捉えた、木造による2層目の床を計画する。

自然の季節ごとのさまざまな表情、時が移ろう気配を繊細に映し出せるように、余分な要素をそぎ落とし、できるだけシンプルに表現をしながら、しかも多様で、微細な場が生まれることを意図した。

両側の東西方向の吹抜けを、内外部のバッファゾーン、中間的なゾーンとして計画し、バルコニーをその両端部に引き込んで配置をした。また、中間にブリッジをかけるなど、さまざまな環境が混在するように、そして用途

を限定しないルーズな場や、これからの余地を含めて計画をした。

厳しい外部環境から内部を防御することと共に、十分に自然を享受するための仕掛けが必要になる。光の射し込み、風の流れ、木々の香り、さえずりなどをより身近に感じること、そして“籠り方”の程度、視覚のグラデーションを多様に実現できるように、クローズからフルオープンへと、建具の開閉の仕方、重なり具合によって制御する。

1階南側の外部は、建具をすべて引き込んで全開放に、内側のゾーンはスライド式、半透過の可動幕によりその質を変化させる。2階は無双形式の吊り雨戸として、端部の建具の操作で全体を開閉する。また吹抜け側の境界面は障子で柔らかに仕切る。妻側の壁面は外壁をクラディングし、その外壁との間に建具を引き込み、ファサードが煩雑になることを避けて、フラットな表情を目指した。

心身のリフレッシュゾーンであるサニタリースペースは、内装を外部の時の変化が映し出せるように、バスタブを始め、すべての器具と床、壁のタイルを白色で統一し、西側ゾーンの端部に配置した。

そして富士山の威容を眼前に望む。

内外部の境界を超えて、自然と共にあること、感性が刺激されることを実感しながら、新たな“場”を発見し、そしてそこからまた、新たな“住まい方”を見い出せる場となるように思っている。



ひらくら-しょうじー 建築家/1943年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。1975-2008年、久米設計。2009年、平倉建築研究所/ HAL 設立。現在、早稲田大学建築学科非常勤講師、JIAプロフェッショナルスクール長。主な作品:日本城郭研究センター[1990]、教科書研究センター[1991]、税務大学校和光校舎[1998]、Hondaと光ビル[2005]、ROKIグローバル本社[2006]など。

1——南面全景 | 2——室1 | 3——室2 | 4——北側の吹抜け | 5——洗面スペース | 6——サニタリー



建築概要

名称:苔山居 | 所在地:山梨県富士吉田市 | 家族構成:夫婦 | 敷地面積:2,000.00㎡ | 建築面積:81.05㎡ | 延床面積:142.48㎡ | 規模:地上2階 | 構造:木造 | 工期:2007.10-2008.5 | 設計:平倉章二+平倉直子建築設計事務所 | 施工:丸格建築
 ● INAX使用商品 | サニタリー | 床タイル:サーモタイル ピュアフロア IFT-300 / PU-31,PU-21、壁タイル:アコルディム ADM-25M / 200、浴槽:アーバンシリーズ IMB-1400PR / SW1、便器:サティス DV-315AU / BW1、洗面器:フライングソーサー(平倉直子デザイン)、洗面器用水栓金具:SF-800SN

